

明治期の唱歌における子守唄

山崎浩隆・中川(森)みゆき*・野口梨菜**

The Lullaby in the School Songs in the Meiji Era

Hiroataka YAMASAKI・Miyuki NAKAGAWA (MORI)*・Rina NOGUCHI**

(Received October 1, 2010)

はじめに

「五木の子守唄」や「鳥原の子守唄」は歌曲化しコンサートで歌われる現代の日本において、一方では、母親が赤ん坊を寝かしつける際に子守唄を歌わなくなった、と言われている。そのような現状において、2004年に粉ミルク等乳幼児食品の製造、販売の会社である和光堂が、子守唄に関する調査を行った¹。対象は3歳以下の子どもを持つ母親であり、1600人が回答した。それによると「子どもを寝かしつけるためにほとんど毎日子守歌を歌う」のは14.6%、「時々」は31.3%で、この両者を合わせても50%に満たない。また「全く歌ったことがない」と答えた母親が22.4%に上るといふ。さらに「子守歌に何を歌いますか」という調査に対しては、1位が「ゆりかごの歌」、2位が「江戸の子守唄」、3位が「大きな古時計」、4位が自作の歌、5位が「ぞうさん」、6位が「シューベルトの子守歌」、7位が「七つの子」、8位が「どんぐりころころ」、9位が「いぬのおまわりさん」、10位が「森の熊さん」であるといふ。

アンケートに答えた約半数の母親が、子どもが眠りにつく際に何らかの歌を歌っていることになるが、「子守唄」と名のつくものは非常に少なく、しかも日本に古くから伝えられてきた子守唄をほとんど歌っていない現状がうかがえる。なぜ、母親たちは、古くから伝えられてきた子守唄を歌わないのであろうか。大きな理由のひとつは、口承で伝えられてきた子守唄の伝承が途絶えてしまっていることがあげられる。では、なぜ伝承が途絶えてしまったのであろうか。日本全国には、各地方に伝わる数多くの子守唄が存在した。『日本民謡大観²』には膨大な数の子守唄が記録されており、北原白秋が昭和22年にまとめた『日本伝承童謡集成 第一巻 子守唄篇³』にも、歌詞だけではあるが、約4000曲の子守唄が掲載されている。これらの資料を概観すると、歌詞の内容はいくつかのパターンに分類することはできる。さらに、五木の子守唄だけでも、歌詞だけで約70種類あるといふ事実からも、楽譜もマスメディアも発達していない時代に、それぞれの地域で、民謡やわらべうた同様に「生きたうた」として、膨大な数の子守唄が歌われていたことが分かる。

マスメディアの発達により、現代の日本においては、日本全国において同じ歌が歌われる。テレビやCD、インターネットによる曲のダウンロード、あるいは学校で習うことにより、日本全国の子どもたちが同じ歌を歌っている。子どもが歌を知る媒体としては、現在はテレビやインターネット、少し時代をさかのぼればラジオ、さらにそれ以前には、少女雑誌などに代表される雑誌類の出版物である。明治以来の歴史の中で、出版物として最初の媒体となったのは、音楽の教科書であり、それは現代においても共通する貴重な媒体である。

最近では、子どもたちにジャンルを超えたさまざまな音楽を知ってほしいという文部科学省の意図により、日本の伝統音楽や世界各地の民族音楽を積極的に教科書に取り入れられるような動きが見られる⁴。そのような中、小学生の教科書においては、小学5年生の教科書に「こもりうた」として「江戸の子守唄」が掲載されており、音階の説明とともに、子守奉公の歴史などについても説明が付け加えられている⁵。

明治以来の教科書において、子守唄はどのように取り扱われてきたのだろうか。昭和16年に発行された国定教科書『ウタノホン』には、「コモリウタ」というタイトルで「江戸の子守唄」が掲載されている。明治5年の学制発布以来、試行錯誤しながら多くの教科書が出版されてきた。その中で、子守唄がどのように扱われてきた

* 熊本大学教育学部・大学機能開発総合研究センター非常勤講師

**熊本大学大学院教育学研究科1年

のか、ということの本論文では考察していく。教科書には、国家が子どもをどのように育てたいか、日本の国民としてどのような考えを持ってほしいか、という意図が反映されている。本来子守唄は、赤ん坊がはじめて耳にする歌である。その歌をどのように扱ってきたか、ということ教科書における掲載という点から考察を加える。そもそも子守唄をどのようにみなしてきたか、また日本古来の子守唄と西洋から伝えられた子守歌との扱いに相違点が見られるのか、さらに、新たに作られた子守唄には、どのような意図が含まれているのか、ということに留意していく。

教科書としては、明治時代に発行された唱歌集を対象にする。『ウタノホン』にいたるまで、そしてさらに戦後から現代までの歴史を将来的には概観するつもりであるが、その第一段階目としての本論文では、明治期のみに限る。明治14年に『小学唱歌集』が文部省から発行され、初の国定教科書『尋常小学唱歌集』が明治44年に発行されるまで、音楽の教科書の模索の時代が続き、その結果、膨大な数の唱歌集が発行され、その中で膨大な数の唱歌が作曲された。それらを丹念に調べて、子守唄を抜粋していき、考察を加える。

日本の子守唄は、他の国の子守唄と比較した時に、ある特徴が見られる。それは、母親以外が歌う子守唄が数多く伝えられているという点である。これは子守奉公の娘(守り子)たちが、主人の子どもを背中におんぶしながら、自分の不幸な心境を歌った歌などが伝えられている「五木の子守唄」に代表されるような伝承歌を指す。まず、本論文の「1. 日本の子守唄の概説」において、日本の子守唄の特徴を述べる。さらに明治期のいくつかの文献において、子守唄に関する記述が見られる。それらの記述には、赤ん坊のところに守り子たちにおんぶされて育った者が自分の経験を思い出しながら、日本の子守唄について書いた貴重な文献等がある。それらを引用しながら、日本の子守唄について概観する。その後「2. 明治期の教科書」においては、「3. 唱歌における〈子守唄〉」のために、明治期における教科書について概観する。明治期は、西洋文化を移入し、教育制度が整備され始め、それに伴い学校教育自体をどのように行うかという、いわば模索期であった。それは同時に、実際に使用するすべての教科の教科書を作るにあたり、ゼロからの出発と言っても過言ではなかった時期である。その時期に、音楽教育に関する事項を中心にしながら、教育制度がどのようなものであったか、さらに教科書がどのように作られていったのか、ということ考察する。そして「3. 唱歌における〈子守唄〉」において、明治の音楽の教科書である唱歌集において、実際にはどのように子守唄が扱われてきたのかという考察を加える。音楽という科目は、当時は「唱歌」と言われていたが、これについては、学制が公布されても教える教員もいなければ教材も皆無、という状況であり、文部省は「当分之ヲ欠く」という文言を出さざるをえなかった状況であった。音楽取調掛が設置され、文部省と音楽取調掛による初めての音楽の教科書である『小学唱歌集』が作られていくが、伊澤修二が残した『音楽取調成績申報書⁶⁾』においても見られるように、西洋音楽と日本音楽をどのように処理していくか、ということは大きな問題であった。そのような状況をふまえ、さまざまな唱歌集を紐解きながら、どのように子守唄が扱われているのか、ということ調べ、考察を加える。

なお、本論文において調査する唱歌集は、明治時代のものに限る。明治期は「唱歌」という科目が設定され、学校で教える音楽自体をどのようなものにするのか、日本音楽と西洋音楽をどのように折衷していくのかいかなのか、教科書はどのようなものを作るのか、まさにゼロからの出発であった。明治期に作られた唱歌が、道徳的で修身的な内容のものが多く、明治後半からは言文一致運動の影響も唱歌作曲に大きな影響を与えたものの、子どもが簡単に歌える曲とは言えず「唱歌校門を出ず」と言われたほどであった。そのような状況を受けて、大正期では童謡運動として、子どもの視線で歌詞が作られ、子どもが歌いやすい曲が作られるような動きへと導かれる。つまり、ゼロからの出発であった唱歌作りは、大正期に大きな転換期を迎える。日本の西洋音楽の受容と子どものための音楽環境づくりにおける第一段階としての明治期を、本論文では対象とする。大正期から昭和初期にかけてについての展開については、次回の課題としたい。

本論文においては「子守唄」と「子守歌」という二通りの表記を使い分けている。口承で伝えられた曲に関するものについては「子守唄」と表記し、外国から伝来した曲に関するものについては「子守歌」という表記を用いている。なお、こもりうた全般を指す際には、便宜上「子守唄」という表記を用いている。

1. 日本の子守唄の概説

人類がこの地球に誕生して間もない原始時代において、子どものお守りをどのように行ってきたのか、ましてや<こもりうた>を歌っていたのかという記録は残念ながら残されていない。そのため推測になってしまうが、

音楽やことばが生まれたのと同様に、親が子どもをあやす道具の一つとして歌を用いることで、自然とくこもりうたは生まれたのではないかと考えられる。そして文献上我が国最古のくこもりうたが載っているのが、14世紀はじめの鎌倉時代末期に記された、全10巻にわたる『聖徳太子伝』の中の第1巻である⁷。大意は「ねんねしなさい。縁の下のむく犬や目のきらきらしている者に連れていかれるぞ。乳母はどこへ行った。川へおしめを洗いに行った。ねんねしなさい。」というもので、前半は〔おどし唄〕、後半は〔寝させ唄〕となっている⁸。（この分類については注11を参照。）これは聖徳太子のために乳母が詠んだもので、くこもりうたの子守唄と呼ばれている。当時の大半の家庭では家族の中の誰かが子守りをするのが普通であったが⁹、ここに登場する乳母のように、「乳母」という子育ての役目を担った女性も古くから存在していたのである。

そして室町時代の末期から江戸時代になると、商工業を営む家庭が多く出現するようになり、多くの雇い人を抱えることになった家の母親たちは彼らの世話に追われ、我が子の世話ができる状態ではなくなってきてしまった。そこで、炊事・洗濯をする女中や、子守りをする少女たちも雇い入れるようになってくる。この子守りを行う少女たちのことを「守り子」、そしてこのような雇用関係を「子守り奉公」と呼んだのである¹⁰。子守り奉公をすることになった五つや六つの少女たちは、家族から離れ他人の家に住み込んで赤ん坊の子守りをして、我が家に帰ることができるのは年に一回ほどであった。まだまだ親や兄弟に甘えたい年頃であっただろう。しかし少女とはいえ、雇われている身の彼女らは、雇い主にどんなに文句を言われたり、無理難題を命命されたりしようと反論や反抗はできなかつたのである。そのような鬱積した感情を吐き出していたのが、守り子唄とよばれる彼女たちの子守唄である。歌詞の中に、雇い主に対する悪口や嫌味をおりこんであるものが多く残されており、この子守唄を歌うことがストレスのはげ口となっていたのであろう。

もちろん、日本の子守唄において守り子唄だけが発展してきたわけではない。一言で子守唄といっても、母親が子どもを寝かしつける際に我が子の将来を願う内容のものや、早く寝ないとおばけが出るなどと脅すことで寝かせようとする内容のものなど、様々なものが存在しており、時代によってどのような見方があったのか¹¹、三例を示しておく¹²。

(1) 釈行智…1778 - 1841 学僧。古代インド梵語学の権威。

- 〔寝させ唄〕子どもを寝かしつける時に歌う唄
- 〔目覚め唄〕子どもが起きている時に歌う唄
- 〔遊ばせ唄〕子どもと自分が共に遊べる唄¹²

(2) 岸辺福雄…1873 - 1958 幼児教育者。大正期に児童芸術運動を始め、北原白秋、山本鼎らと『芸術自由運動』を創刊。

子守が無心で唄ふのを注意して聞いてをりますと、いろいろながあります。中には、負さつてゐる赤ん坊が如何に無心であるとはいへ、文句が野卑で、とても聞かされないやうなのが澤山あります。例へば、

- 一、ねんねなされよ、寝る子は可愛い、起きて泣く子は面憎い。
 - 二、根性悪い子はおかめに噛ましよ、おかめ怖いわいな寝るわいな。
 - 三、餓鬼めほ泣かば、承知でほ泣け、うちの間口へ聞けるやうに。
- 〈略〉

子守唄のうちには、子守自身が自分の境遇を悲観して唄ふのがあります。

- 一、守といふものは、浅ましものよ、道や街道で日を暮らす。
- 二、お主に叱られ、子に責められて、何慮で立たうぞほ泣け餓鬼。
- 三、かやうに泣かれちや、子守も立たぬ、たまにやお内儀さんの膝で泣け。

また親に諷刺するやうなものもあります。

- 一、お母あれ見よ、飴屋がとほる、太鼓たたいて桶乗せて。
- 二、わたしや帰ります、後に守おきやれ、使ひくらべて名をたちやれ。

〈略〉

さうかと思へば、子守を訓戒するものもあります。

- 一、守や子守や、なぜ子を泣かす、西も東も知らぬもの。
- 二、守や子守や、子を泣かするな、泣かせまいぞの守ぢやもの。

- 三、親のない子に髪結うてやれば、親は喜ぶ極楽で。
 また中には文學的なものもあります。
- 一、昔千年屋島のいくさ、今にござんす繪にかいて。
 - 二、ねんねなされよ、おねんねなされ、明日は坊やが誕生日。
 誕生日には、豆の飯たいて、喰はしよこの子のまめのやうに。
 - 三、家の子さんの、お正月べべは、梅に鶯 竹に虎。¹³

子守唄は、江戸時代には参勤交代、北前船等によって地域文化の交流伝承により人々に流布していたが、明治期に入ると学制の発布による唱歌教授という要素が加わりそれがどのように変容したかを第3章で見ていく。

その前に、岸辺福雄以外の明治時代の人々が子守唄についてどのように感じどのようにとらえていたかをつけ加えておく。これは、「3. 唱歌における〈子守唄〉」で必要に応じて触れることになる。

(1) 天野藤男…1887 - 1921 明治-大正時代の教育者は、以下のような文を残している。

その頃は誰より子守が好きであつた。偶に下男や他の男の背に負はれることもあつた。子守女の背中より大きく廣くそしてしつかりしてゐる。けれど矢つ張いつもの子守の背の方が温くて心持がよかつた。姉弟のある家では順々に背負ひ背負はれたものだ。骨肉の情が背より順に移るので、兄弟仲のよい事無理はない。自分は思ふ。ゴム輪の乳母車で育つた子よりは、子守女の背に育つた小供の方が或意味からいふと多幸である。而して今此子守唄なるものを考へて見るに、子守あつて始めて唄あり、小兒あつて始めて子守女あり。子守と唄とは切つても切れぬ関係のあるものである。子守唄ある故に子守が懐かしく子守なくして唄はない。背負つて呉れたのは子守女で、寝かして呉れたのはその唄である。淋しい時、寝られぬ時、お腹が空いた時でも温い背の中で、このなつかしげな音楽を聞くと思はず夢の天国へ通つたものだ。而してさめて見ると枕元に行燈がほんやり灯つて居つて、母さますらすやすやと寝つて居らるといふやうな記憶もある。

或時は又廣い廣い野原を星のふるやうな暁に、子守の背にゆられゆられて何慮かへいつたことを覚えて居る。今考へて見ると其が何慮で、什うした譯で彷徨したかわからぬ。といふやうな思ひ出もある。恐らく恁んな聯想のないものはなからう。幼時の思ひ出は子守の背に始まる。¹⁴

(2) 小野政方…1885 - 1945 教育者

もとより子守唄は、母親と限つたことはない。われわれは、春の夕べや、秋の夕方など、子守女が、清い聲で脊門口で、子守唄を歌ふのを聞く時、何んとも云へぬ胸に滲み入るやうな溶けてもゆきさうな、哀感を覚ゆるのであります。¹⁵

(3) 三木露風 …1889 - 1964 詩人

童謡「赤とんぼ」について講演で次のように述べている。

この私の作は実感でありまして、私のことでもあります。私が極めて幼いころに、私の母が子守娘を頼んでおきました。その子守娘のことを「姐や」と申すのであります。静かに姐やが私を負うて、飛んでいる赤とんぼをみます。赤とんぼは、つうい、つういと飛んでおりました。私の故郷の裏の山の畑に桑の木がありまして、その桑の木に実をならします。そこへ行きまして、姐やがその実をとって小籠に入れたりしました。思い出でありますので、もうそのことは幻のようになったというのであります。¹⁶

このように、明治時代の人々にとって子守唄は、子どもの頃の体験が蘇る鍵として身体に深く刻まれているのである。では、明治時代の人々が実際に歌っていた子守唄にはどのようなものがあつたのだろうか。「泣くと〇〇がやってくる」といった脅し歌的な子守唄や、「明日はこの子の宮参り 一生この子がまめなよに」という歌詞の子守唄が、いかに一般の人々にとってなじみの深いものであつたか、ということが分かる資料がある。

渋川玄耳(1872 - 1926)は、本名を渋川柳次郎といい、明治期に活躍したジャーナリストであり、随筆家である。彼の著した『閑耳目¹⁷』に「雪子が自作の子守歌」という項がある。以下に引用する。

雪子が自作の子守歌

○寝ん寝んよオロロンよ、泣くとワンワンよ、寝ン寝よ、オロロンよ、泣くと鉄砲よ……と雪子は自作の子守歌を謡うて居るオロロンと訛つて居るのが何だか朝鮮的に聞える。其は兎に角、彼は人形を睡らすべく脅迫して彼れ自身が想像し得る限りの恐いものを算へ立てる、黙つて聴いて居ると、ワンワン、鉄砲の次ぎに謡はれたのは刀、猫、鬼、毛虫、ロスケ、支那人の坊さん、屑屋。余程戦争が深い印象を与えて居る様だ。何故ロスケが恐いものかと聞へば「暗い所に連れて行くから。」

洪川の幼い娘が「泣くと○○がやってくる」という脅し歌的な子守唄を人形に歌っている場面が書かれているのだが、この文章は、この時代の子どもたちにとってこのような子守唄が一般的で馴染みの深いものであったことがよく分かる。脅し歌的な子守唄も各地に伝わっているが、北原白秋の『日本伝承童謡集成 第一巻 子守唄篇¹⁸⁾』にもいくつか見られる。その例を以下にあげる。

ねんねんころりよ、ねんころり、
坊やはよい子だ、ねんねしな、
泣くとお鷹にさらわれる、
だまってねんねん、ねんころり
〔栃木〕

ねんねんよう、ねんねんよう、
起きたら妖怪にかぶらせる、
寝たらお母につれていく。
〔山口〕

ねんねかねんね、
寝たらかあさんへ連れて行く、
起きたら狼とってのむ。
〔岡山〕

次に『お座敷二輪加 酒席余興¹⁹⁾』に子守唄が取り上げられている例を示す。

◎子守唄

『扮装』子守の風にて、蒲団を丸めて背中に負ひ、豆の棒を齧りながら出る。

モリウタ「ねんねしなされお眠みなされ、明日は此子の宮参り、宮へ参つたら何買うてくれよ、何卒《何と云うて拝む、一生》オチ このやうな豆の棒を《此子の壮健なよに》。

二輪加とは「俄」という芸能で、仁和和、仁輪加、二〇加などとも書く。滑稽、風刺、洒落、頓知などをねらって即興頓作する即興狂言で、江戸時代から明治時代にかけて、江戸の吉原や大坂、京都、博多を中心に流行した。なお大坂で流行した俄は、大坂の新喜劇へと発展した²⁰⁾。『お座敷二輪加』は、俄のネタを集めて1冊にまとめた本であるが、ネタになっているものには時代を反映した「舶来の雨傘」「欧州婦人」、いつの時代も話題になる「姑心」「女房の洗面」、芝居や流行している大衆芸能を材料にした「浪花ぶし（赤垣の徳利）」「晴舞台（狂言鞆猿）」など、多種多様なことを話題にしている。その中で、上記に引用した「子守唄」がある。これは「明日はこの子の宮参り 一生この子がまめなよに」という最後の歌詞にオチをつけているのだが、手に持った豆の棒と、「達者である」という意味の「まめ」をかけている、ということである。でんでん太鼓の代わりに豆の棒を以ていることが、笑いをねらった演出なのである。この俄からも、このような子守唄が一般的で、誰もが知っている子守唄であることが分かる。

「明日はこの子の宮参り 一生この子がまめなよに」という歌詞の子守唄が全国にある例を以下に示す。これも、先ほどの例と同様に北原白秋の『日本伝承童謡集成』を参照する。

ねんねしなされ、おやすみなされ、
 明日はこの子の宮参り、
 宮へ参ったらなんと言うておがむ、
 一生この子のまめのように。
 〔三重〕

ねんねしなされ、お休みなされ、
 明日は貴方の宮参り、
 宮へ参ったらなんというて拝む、
 一生この子がまめのように。
 〔兵庫〕

『閑耳目』と『お座敷二輪加』は一例ではあるが、これらから明治時代の一般の人々にとっての子守唄がどのようなものであったのか、ということを垣間見ることができる。

2. 明治期の教科書

明治期の教科書については、多くの先行研究があり、それらをもとに明治期の教科書がどのような経緯で作られていったのかということを見ていくことで、「教材」としての教科書の役割を考察する。なお、ここでは『日本教科書体系²¹⁾』の教科書目録に掲載されたものを対象とする。

明治5年8月に発布された学制により、小学校に「唱歌」、中学校に「奏楽」が教科として設けられた。この時の音楽とその教育に関する文部省の考えについて、山住正巳は「愛国心の教育と女子教育に音楽を利用しようという意見が目につく²²⁾」と文部省が発行した雑誌をもとに述べている。音楽の機能を訓育に用いることを核としていたことをうかがうことができる。

しかし、このときはいずれも「当分之ヲ欠ク」とされ、音楽取調掛編の『小学唱歌集』が発行された明治14年になってようやく音楽教育が進み出すまでおよそ9年の歳月がかかっている。指導する教材が整っていなかったばかりでなく、その指導者、そしてその指導者を養成する組織さえなかったのである。

明治14年によく最初の教科書である『小学唱歌集 初編』が発行された。その緒言には「凡ソ教育ノ要ハ徳育智育体育ノ三者ニ在リ而シテ小學ニ在リテハ最モ宜ク徳性ヲ涵養スルヲ以テ要トスヘシ今夫レ音楽ノ物タル性情二本ツキ人心ヲ正シ風化ヲ助クルノ妙用アリ²³⁾」と当時の音楽取調掛長であった伊澤修二が述べているように、「徳性の涵養」が重要であり音楽は「人心ヲ正シ風化ヲ助クルノ妙用アリ」とその機能の効果を強調している。愛国心教育と女子教育から徳性の涵養へと、どちらも訓育という領域では共通しているが、その範囲がより広汎なものになっている。そして、この「徳性の涵養」ということが、「明治十年代末から二十年代にかけて、各地方でもこの唱歌集に類似のものがたくさん発行されているが、その多くはこの方針に迎合し、『小学唱歌集』よりもはるかに露骨な徳性涵養の唱歌となっている²⁴⁾」という状況になっていったのである。つまり、音楽に関する技能の習得よりも「人心ヲ正シ風化ヲ助クル」という訓育を第一の目標として音楽教育はスタートし明治20年代まで進んだのである。

さて、『小学唱歌集』が世に出て9年後、明治23年に発行された教科書の中には、その緒言をみると発行の趣旨がそれまでとは異なるものが現れた。指導しやすい教材を新たにつくったり加えたりした『増訂小学開発唱歌集²⁵⁾』である。「多年而ノ音楽専門家ノ教授ヲ受ケ少シク得所アリ是ヲ以テ小学生徒ニ試ミシニ其ノ教授ノ至難ナルヲ覚知ス」と、指導法に着目し指導のしやすさを中心に編集したものである。緒言には、男女によって好きな曲とそうでないものがあり、女子は好きだが男子が嫌いなものは教えるはならない、さらには、言葉の訛り誤りを正すことが主であり、生徒が発音に苦しまないことがもっとも必要な指導法だとも書かれている。男子を指導対象の中心として考えられているのはこの時代仕方のないことであろうが、子どもの興味関心を考慮することやいやな思いをさせない、音楽を嫌いにさせないという意図をもって編集されていることがこの記述からわかる。

このような子どもの側から教科書を考える流れには他に言文一致運動があった。言文一致運動の趣旨は、話し言葉と書き言葉を一致させ、日常の思想や感情を的確に表現して、誰にも分かる文章を書こうというものであ

る²⁶。この流れに賛同し、唱歌そして唱歌集をつくっていった一人に田村虎蔵（1873 - 1943）がいる。田村は、明治41年に出版した『唱歌科教授法』の中でそれまでに発行された唱歌集のことを「その編纂の所以を詮議して見ると、何等児童の研究を参考した点がない様である。」とし、「歌詞曲節共に、児童の趣味に適合させたものであらねばならん。」と述べている。さらに、「かくて、尋常一、二学年には、言文一致体の歌詞を選定したのである。当時言文一致体の歌詞に曲節を附することは、頗る大膽なる作業であったのである。そこで、私どもは、殆ど位置を危うするまでに、ある筋の方々から容易ならぬ迫害を加えられたのである²⁷。」と続けている。このことから言文一致体で唱歌集を発行すること、つまり子ども側に立った教科書の編纂は亜流であり、当時の音楽界、音楽教育界では認められていなかったことがわかる。

では、言文一致の流れの中で、子ども側に立った教科書の編纂に取り組んだ田村とは逆の主流の側では、どのような教科書をつくっていたのだろうか。『日本教科書体系 唱歌編²⁸』に掲載されている一覧を見ると、明治22年に発行された二つの『軍歌集』を皮切りに次第に明治26年の『日本軍歌』、『精神教育対外軍歌』等、軍歌あるいは軍歌調の教科書が数多く発行されている。タイトルに軍歌あるいは行軍等、軍事的要素を含んだものだけでも56を数える。一覧に記載された明治期の教科書は総数が240なので、その割合は23%に上る。「國を挙げての富国強兵」というスローガンには、当然子どもたちも含まれており、音楽の教科書にもそのことが色濃く表れていたことがうかがえる。文部省も明治37年に『戦争唱歌』、38年に『凱旋』という唱歌集を発行している。明治27年に日清戦争、明治37年に日露戦争が起こったことをみるとそうせざるを得なかったと言えるだろう。現に、子どもの側に立った教科書の編纂を目指した田村も『日露軍歌』『旅順陥落 祝捷軍歌』等の軍歌による唱歌集を発行している。

このように見てみると、明治14年の『小学唱歌集』の発行以降多くの唱歌集が発行されているが、旋律は、西洋風、日本風、そして新たにつくりだしたものという当初の形から日清、日露の二つの戦争を通して軍歌や軍歌調へと変化していったのである。一方、表現方法は子どもにとっては難解な文語調のものと平行して子どもにより分かりやすく提示することを旨とした言文一致体のように口語調のものも登場している。さらに、教授法に関する本²⁹も多く出版されている。言文一致体による唱歌集の編纂に努めた田村の唱歌集は、教科書として扱われた240の中の41に上る。これは同一人物が唱歌集の曲づくり、選択に携わったものの中では最多である。これらのことから当時の指導者たちが、いかに分かりやすい指導を目指していたかをうかがうことができる。ただし、その内容は一貫して修身や戦意高揚を含めた「徳性の涵養」を目指しているのである。では、「徳性」の内実に変化はないのだろうか。文部省が発行した明治14年の『小学唱歌集』と明治44年に発行された『尋常小学唱歌』の歌詞の内容を比較してみる³⁰。

表1 『小学唱歌集』と『尋常小学唱歌』における歌詞の内容の比較

発行年	明治14～17年(1881～1884)		明治44年(1910)	
	小学唱歌集 初編～三編		尋常小学唱歌 第一～六学年	
	曲数	割合	曲数	割合
自然、生活・行事に関するもの	39	42.9%	46	38.3%
君が代を祝うもの、忠君愛国的なもの	26	28.6%	35	29.2%
教訓的なもの	26	28.6%	26	21.7%
勤労定活を歌い、殖産をたたえるもの	0	0	10	8.3%
その他	0	0	3	2.5%
総 数	91		120	

明治14年には、自然、生活・行事に関するものが4割を超え最も多いのに対し、明治43年には忠君愛国的なものや勤労殖産的なものだけが増加し、自然、生活に関するもの、教訓的なものは減少している。「徳性」の内実にも若干の変化があり、忠君愛国、勤労殖産の意識を唱歌教育によって高めようとしたことがこの比較からわかる。そして、唱歌の影響について教科書の歴史を研究した唐澤富太郎は「小学唱歌の影響は、今日でもなお、

その教育を受けた人々の心の中に生き生きとよみがえるものをもっていることから見てもわかるように、予期以上に大きなものであって、観念形態として修身・歴史等で教え込まれた『忠君愛国』よりは、はるかに根の深いものと考えてよいと思われる³¹⁾と述べている。『小学唱歌集』に謳われた「徳性の涵養」は、明治政府のその時々々の意図が教科書に反映され、子どもたちの心情に強く訴えることになったのである。

また、この唱歌における「徳性の涵養」は明治12年に出された「教学大旨」を経てその意図が明確になる明治23年発布の「教育勅語」との関連に触れておこななくてはならない。山住は「音楽取調事業が設立された明治12年は、『教学大旨』のなされた年である。」とし、その中の「小学条目二件」の第一項を挙げ、唱歌教育が始まる以前から愛国心教育の萌芽があることを指摘している³²⁾。そして、それは「教育勅語」へとつながっていくのである。「教育勅語」の影響の大きさは言を俟つまでもなく、当時の政府が訓育の根幹としてその思想を教育活動によって流布しようとしていたことが分かる。その一つの方法として、唱歌の編纂ならびに唱歌教育が行われていくというのは当然の流れであったに違いない。

3. 唱歌における〈子守唄〉

明治10年に通称『保育唱歌』として知られている『保育並ニ遊戯唱歌』が出版はされなかったものの、雅楽の伶人達によって作曲され、さらに文部省と音楽取調掛による音楽の教科書『小学唱歌集』が、明治14年から17年にかけて発行される。それを皮切りに、膨大な数の唱歌集が出版された。明治36年に、教科書が国定化されるまで、各県において教科書が発行されていたため、かなりの数の教科書が発行されたことになる。唱歌に関しては、明治44年から大正3年にかけて『尋常小学唱歌』が出版される。ちょうど明治の終わりから大正にかけて、明治期の集大成とも言える『尋常小学唱歌』が世に出たことになる。これらの唱歌集において、子守唄がどのように扱われているのか、考察を加えていく。

3-1 明治期の唱歌における子守唄についての概観

明治期の唱歌集において、子守唄がどのように扱われているかを概観する。年表1に、明治期に出版された唱歌集における子守唄についての基本情報をまとめた。

年表1 子守唄が掲載されている唱歌集

	唱歌集名	著者名	出版年	出版西暦年	出版事項	子守唄タイトル
1	小学唱歌集 初編	文部省音楽取調掛編	明治14	1881	東京:文部省	ねむれよ子
2	小学生徒用遊戯唱歌集	矢羽根孝太郎編	明治20	1887	市川大門村(山梨県):芳文堂	教訓子守謡
3	新撰唱歌 小学生徒 第1集	日置岩吉	明治21	1888	大阪:赤志忠雅堂	眠れみどり児
4	絵入幼年唱歌	佐々木信綱	明治26	1893	東京:博文館	子守歌
5	幼稚園唱歌	エー・エル・ハウ撰	明治25	1896	大阪:福音社	ねんねしな
6	1・2・3唱歌集 小学校教科用	入江好次郎	明治33	1900	東京:博文館	子守唄(其一)
7	1・2・3唱歌集 小学校教科用	入江好次郎	明治33	1900	東京:博文館	子守唄(其二)
8	1・2・3唱歌集 小学校教科用	入江好次郎	明治33	1900	東京:博文館	改良子守謡
9	1・2・3唱歌集 小学校教科用	入江好次郎	明治33	1900	東京:博文館	修身子守謡
10	修正小学読本歌曲集	永井幸次	明治33	1900	静岡:吉見書店	もりうた
11	日本遊戯唱歌集 第壹編	鈴木米次郎	明治34	1901	東京:十字屋	守り歌
12	日本遊戯唱歌集 第貳編	鈴木米次郎	明治34	1901	東京:十字屋	守り歌
14	小学読本唱歌	目賀田万世吉	明治34	1901	奈良:音楽書院	ねよねよ三吉
15	唱歌教科書 教師用 巻1-4	共益商社楽器店	明治35	1902	東京:共益商社楽器店	子守唄
16	英語唱歌愛吟集 第2週	長井庄吉	明治36	1903	東京:太平洋館	哀れ、森の稚児
17	日英唱歌集 第1集	福井直秋	明治41	1908	東京:学海指針社	眠れる子
18	新唱歌 教科適用	渡辺義丸、(小林礼)	明治43	1910	甲府:開進堂商店音楽部	子守歌
19	女子音楽教科書 教師用 巻之一	永井幸次、田中銀之助	明治44	1911	大阪:開成館	子守歌
20	中学唱歌 教科統合 第3巻	田村虎蔵編	明治44	1911	東京:東京音楽書院〔ほか〕	Cradle Song

これを見ると、「こもりうた」と読むにも「子守歌」「子守唄」「子守謡」といろいろな「うた」という漢字が当てられていることが分かる。また同義語として「守り歌」「もりうた」という呼称も使われている。さらに、「ねむれよ子」「眠れみどり児」や「ねんねしな」「ねよねよ三吉」というように「眠る」「寝る」という言葉から派生した言葉を使って曲の題名にしているものも見られる。

年表1に見られる曲については、楽譜が掲載されているものがほとんどであるが、中には歌詞のみのものも含まれる。楽譜があるものを中心に、それぞれの曲の内容を検証していくと、以下の3種類に大別できる。

1. 外国から伝来した曲
2. 日本古来の曲
3. 新しく作られた曲

さらに上記1～3について、旋律と歌詞という2つの視点から分析すると、それぞれの項目について以下のような特徴が見られる。

表2 唱歌集に見られる子守唄の特徴

	旋律	歌詞
1. 外国から伝来した曲	①讃美歌（あるいはそれに準ずる） ②讃美歌以外の曲	A.原語のままの歌詞 B.邦訳された歌詞
2. 日本古来の曲		A.母親が歌う歌(寝かせ歌) B.守り子歌 C.新しく作られた歌詞
3. 新しく作られた曲	①日本風に作曲された曲 ②西洋風に作曲された曲 ③楽譜がないため不明な曲	A.寝かせ歌のような歌詞 B.修身的・教訓的な歌詞

まず、上記の表にあげた旋律と歌詞の特徴について簡単に述べる。

(1) 外国から伝来した曲について

旋律においては、大きく分けて讃美歌かそうでないか、ということに分けることができる。鎖国時代が終わり、諸外国との交流が始まることにより、多くの外国文化が入ってくることになる。日本が国を開いたことにより、主にアメリカから多くの宣教師たちがやってきた。宣教師たちの目的は、キリスト教の布教であるが、布教のための手段として讃美歌が入ってきた。また、讃美歌は讃美歌として作曲された曲だけではなく、民謡や子どものための歌などにキリスト教の教えの歌詞をつけた、というものが数多く見られる³³。さらに、宣教師たちは、日本各地に学校をつくり、布教活動を広めていった。その過程で、教科書ができ、その中に讃美歌やそれに順ずる布教のための歌が掲載され、歌われるようになった。これが、明治政府が学制を發布し学校制度を整備し、教科書を模索しながら作った時期と重なる。明治期の洋楽導入として、唱歌、讃美歌、軍歌が大きな柱として語れることが多いが、ここで唱歌と讃美歌とを考える時に、別のものとして捉えることは難しい。このような理由から、西洋諸国から伝来した曲について、まず讃美歌かそうでないものか、ということに分けて考える。

歌詞については、原語のまま掲載されているものと、邦訳された歌詞が掲載されているものとに大別できる。どのような唱歌集に、どちらの歌詞が採用され、どのように邦訳されているのか考察を加えたい。

(2) 日本古来の曲

明治政府が進めた西洋化により、各教科の教科書作成においては、西洋の教授法とそれまでの日本の教授法とをどのように折衷するかが大きな問題となった。これは音楽においても同じであり、現代においても、この問題は解決しないままである。伊澤修二がまとめた『音楽取調成績申報書³⁴』においても、3つの大きな柱を立てており、それは、東西音楽の折衷に着手すること、国楽を興すべき人物を養成すること、諸学校に音楽を実施し適否を試すこと、と述べている。しかし、現代に至る音楽教育の実態を考えると、伊澤修二が当初述べていた「東西音楽の折衷」や「国楽を興すべき人物を養成」することに関しては、成功したとはいえない状況であろう。

教科書を作り始めた当初から、いろは歌や数え歌のような、口承で伝えられ、誰もが親しんできた歌を教科書に採用するか否か、ということについては、大きな問題であったようだ。「子守唄を教科書に採用するかどうか」についての記述は、これまで目にしたことはないが、日本の子守唄の性格から考えると、数え歌等よりも採用されにくい性質を持つ、と考える。日本の子守唄は、「1. 日本の子守唄の概説」でその特徴を簡単に述べたように、母親が歌う寝かせ歌のようなものと、母親以外が歌う子守唄とに分けられる。母親以外が歌う子守唄とは、子守奉公の守り子たちが歌う子守唄である。農家の口減らしのために奉公に出された少女たちである守り子たちが歌ってきた歌を、教科書に採用するであろうか。数え歌や鞠つき歌に関して「子守歌や鞠付歌のように価値のない、いまさら語る必要のない音楽」と教授法の本の中で述べている³⁵ような時代に、守り子たちが歌う歌は、数え歌や鞠付歌よりも、格の低い歌として捉えられていたと考えられる。

日本の子守唄がこのような性格を持っている、と踏まえたうえで、教科書に採用されているのか否かを考察する。さらに、採用されているとすれば、歌詞に注目し、母親が歌ってきた寝かせ歌のような歌詞(A)であるのか、守り子たちが歌ってきた守り子歌(B)であるのか、あるいは歌詞だけ新しく作られたもの(C)であるのかということを検討していく。

(3) 新しく作られた曲

学制発布以来始めて作られた『保育唱歌』は、雅楽の伶人たちによるもの雅楽の旋法を使って作られた唱歌集であった。その後、音楽取調掛によって編集され文部省から発行された『小学唱歌集』(明治14~17年)や『幼稚園唱歌集』(明治20年)を皮切りに、多くの唱歌が作曲され、膨大な唱歌集が発行されることになる。

『保育唱歌』は、雅楽の伶人たちが雅楽の旋法を駆使し、西洋音楽の形式を模索しながら作った曲集であることが特徴である。それに対し『小学唱歌集』は、西洋伝来の曲に日本語の歌詞をつけた曲が数多く含まれている。その中には、今でも私たちになじみの深い「蝶々」(ドイツ民謡)や「蛍」(スコットランド民謡/現在の曲名は「蛍の光」)などが含まれている。以後、唱歌は大きく分けて日本風に作曲された曲と西洋風に作曲された曲に大別できる。日本風といっても、雅楽の旋法を用いたり、琴歌を参考にしたり、民謡調で作られたり、と作風はさまざまであるので、あえて日本風という言葉を用いる。

さらに、歌詞については、寝かせ歌のような歌詞(A)であるのか、修身的・教訓的な歌詞(B)であるのかに着目する。前述の「(2) 日本古来の曲」で話題にあげたものに「数え歌」がある。これは、古くから伝えられた旋律を用いた歌を取り上げたという点で、唱歌集においては珍しい例であるが³⁶、歌詞は新しく作られたものであり、修身的・教訓的な内容である。「こもりうた」という題の歌において、どのような歌詞が歌われるのか、検証していく。

3-2 外国から伝来した曲について

年表1から、外国から伝来した曲について、下記の表2にまとめた。6冊の唱歌集に計6曲の子守唄が掲載されている。前述の表1にまとめた旋律と歌詞についての特徴は、下記の表中「特徴」の欄に示した。

表3 外国から伝来した曲による子守唄について

	唱歌集名	出版年	子守唄タイトル	特徴	作曲者等
1	小学唱歌集 初編	明治14	ねむれよ子	②B	ドイツ民謡
5	幼稚園唱歌	明治25	ねんねしな	①B	不詳
16	英語唱歌愛吟集 第2集	明治36	哀れ森の稚児	②A	イギリス民謡
17	日英唱歌集 第1集	明治41	眠れる子	②B	タウベルト
19	女子音楽教科書 教師用 巻之一	明治44	子守歌	②B	シューベルト
20	中学唱歌 教科統合 第3巻	明治44	Cradle Song	②A	イギリス民謡

これらの曲については、『幼稚園唱歌』における「ねんねしな」をのぞいて、すべて作曲者かどの国の民謡かが分かった。作曲者については『女子音楽教科書 教師用』を除いては、楽譜に併記してある。各国民謡については『小学唱歌集』以外は、楽譜中に併記してあるか、または解説のページに説明が加えられていた。

さらに、上記の子守唄が掲載されている唱歌集を、その特徴で分類すると、以下のようになる。なお『小学唱歌集』については、その成立過程である歌詞の邦訳について多くの研究がなされてきた。また文部省と音楽取調掛による初の唱歌集であり、他の唱歌集とは異なる成立過程をもつため、『小学唱歌集』については、以下の分

類から省き、最後に考察を加える。

- ・キリスト教的要素の強いもの 『幼稚園唱歌』
- ・歌曲的要素の強いもの 『日英唱歌集』『女子音楽教科書』
- ・英語の学習的要素の強いもの 『英語唱歌愛吟集』『中学唱歌』

これから、上記の3種の分類についてその特徴を述べ、それぞれの子守唄について考察を加える。そして、最後に『小学唱歌集』における子守歌「ねむれよ子」について検証する。

3-2-1 キリスト教的要素の強いもの

『幼稚園唱歌集』は、アメリカ人宣教師アニー・L・ハウ（Howe, Annie Lion 1852-1943）によって、明治25年に正編が、さらに29年に続編が発行された。これは、神戸の頌栄幼稚園における保育のために作られた唱歌集である。訳詩は、大和田建樹によってなされている。ハウはシカゴのフレーベル協会保母伝習学校を卒業後、現地で幼稚園教育に従事し、日本には明治20年に来日している。その後、22年10月に神戸に「頌栄保母伝習所」という保母養成機関を作り、その初代所長に就任し、11月には頌栄幼稚園を開園している。現在でも、ハウが開園した頌栄幼稚園は、神戸市東灘区にあり、多くの園児たちが通っている。ハウは、『幼稚園唱歌集』を皮切りに『クリスマス唱歌』『母の遊戯及び育児歌』などの書物を残している³⁷。

『幼稚園唱歌』の正編では、祈祷歌12曲、朝の歌4曲、クリスマスの歌4曲、四季の歌14曲、花の歌4曲、雑歌16曲、指遊の歌7曲、恩物歌12曲、進行歌3曲、輪遊歌12曲、五官の歌2曲、職業の歌4曲、計94曲が収められている。さらに続編では、朝の歌2曲、祈祷の歌7曲、四季及花の歌24曲、指遊の歌2曲、五官の歌3曲、輪遊の歌4曲、雑歌14曲、計56曲が収められており、一番最後に「ねんねしな」というタイトルの子守歌が掲載されている。ハウは『幼稚園唱歌』正編の序文にあたる例言において、児童のための唱歌集はまだ充分ではないという状況であるとのべ、指遊の歌は「指を柔らかにすると、家族の關係に注意を惹かしむるとの二重の目的を以て」作られており、また「日光、雨、雪、日、月、星の歌ハ小兒の觀察力を是等の現象に引くために」用いるためであり、「五官の歌ハ聰明なる視聽、穎敏なる味嗅及觸覚を發達せしむるために殊に緊要」であり、「遊戯の歌ハ兒童の肢體を練習せんためのみならず又法則、秩序の觀念を發達せしめ、他人の事を思ふ心を起さしむるためにも用ふるを可とす」などと、さまざまな歌を取り上げている理由、その目的などにわたって、細かく説明を加えている。全編を通して、キリスト教精神に根ざし、またフレーベル教育理念に基づく幼稚園教育のために作られたという特色のある唱歌集である。

『幼稚園唱歌』の「ねんねしな」の歌詞を下記に記す。8分の6拍子、へ長調、16小節の短い曲である。

1. じあいの母の 手枕に
うとりうとりと あいらしや
ねんねしな ねんねしな ねんねしな
ねんねしな ねんねしな ねんねしなよ
2. いつしか夢は 春の野の
胡蝶とともに とびめぐる
ねんねしな ねんねしな ねんねしな
ねんねしな ねんねしな ねんねしなよ

3-2-2 歌曲的要素の強いもの

『日英唱歌集』と『女子音楽教科書 教師用』といういずれも明治40年代に出版された唱歌集において、ドイツ作曲家による子守歌が掲載されている。それぞれ、タウベルト（Carl Gottfried Wilhelm Taubert, 1811-1891）とシューベルト（Frantz Peter Schubert, 1797-1828）による子守歌である。これらの2冊の唱歌集には、唱歌集の選曲等において共通点が見られる。まず、2冊とも高等女子教育等のための唱歌集であり、日本の曲よりも西洋の曲に重点を置いているという点である。『日英唱歌集』は、現在の武蔵野音楽大学の創始者でもある福井直秋（1877 - 1963）による編集であり、例言には「楽曲は、欧米並に本邦諸大家の作」とあるが、全27曲のうち僅

か9曲が日本人の作曲家によるものであり、18曲が西洋伝来の曲からなっている。その中には、欧米諸国の民謡やベートーベン (Ludwig van Beethoven, 1770-1827) やシューマン (Robert Alexander Schumann, 1810-1856) の曲なども見られる³⁸。また『女子音楽教科書』は、現在の大阪音楽大学 (当時は大坂音楽学校) の創始者である永井幸次 (1851 - 1931) と田中銀之助 (1873 - 1935) によるものであるが、緒言において「本書には邦人の作曲を載せざりし」ことを明言し、その理由として「現今邦人のなせる作曲否メロデーは、概して駄作」であり「少とも欧米人の作曲に比すべくも非ざるを如何せん」と述べている。つまり『女子音楽教科書』は、すべての曲が欧米の作曲家によるものか、欧米に伝わる民謡等であるということである。

さて『日英唱歌集』における「タウベルトの子守歌」〈Zwölf Gesänge op. 27-5〉と『女子音楽教科書』における「シューベルトの子守歌」〈Wigenlied D498〉の歌詞は、いずれも邦訳された歌詞が掲載されている。これらに共通点があるのだが、それは、原曲の歌詞の意味はほとんど生かされていない、という点である。「シューベルトの子守歌」の邦訳は、山口重樹という人物によってなされている。原曲の歌詞と邦訳を見比べてみると、あえて言うならば、原曲の3番を生かして、邦訳の1番から3番を構成したようである。「タウベルトの子守歌」に関しては、原曲の歌詞は、全く無視されている。原曲の歌詞はシュテファン・シュツツェ (Stephan Schutze 1771-1839) による。以下に、その歌詞を対比させてみる。

原曲 「タウベルトの子守歌」

Schlaf in guter Ruh

お休み ぐっすり

1 Schlaf in guter Ruh.

お休み ぐっすり

Tu die Äuglein zu,

目を閉じて

Höre wie der Regen fällt,

お聞き 雨の音を

Hör wie Nachbars Hündchen bellt.

お聞き 隣の犬が鳴いている

Hündchen hat den Mann gebissen,

小犬が男にかみついた

Hat des Bettlers Kleid zerrissen,

乞食の服を引き裂いた

Bettler läuft der Pforte zu:

乞食は門の方に逃げていった

Schlaf in guter Ruh'!

お休み ぐっすり

2 Still mein süßes Kind,

静かに、良い子よ、

Draußen weht der Wind,

外で 風が吹いている

Häschen, Häschen spitzt das Ohr,

ウサギさん、ウサギさんが耳をとがらし

Sieht aus langem Gras hervor :

高い草の中から外を見ている

Jäger kommt im grünen Kleide,

狩人が緑の服を着てやってくる

Jagt das Häschen aus der Weide.

ウサギさんを 牧場から追い立てる

Häschen läuft geschwind, geschwind,

ウサギさんは素早く、素早く逃げていく

Still, mein süßes Kind!

静かに、良い子よ、

3 Schlaf die Wänglein rot,

お休み、ほっぺが赤い

Hast noch keine Not,

心配することはないよ

Täubchen fliegt auf Feld und Flur,

鳩が野原を飛んでいる

Fliegt und sucht ein Körnchen nur.

飛びながら食べ物 (穀物) を探している

Ach die Kleinen, still und bange,

ああ、小さな子どもたちは、ひそひそと不安げに

Sprechen: "Mutter bleibt so lange."

話している 「お母さんがこんなに長くいるよ」

Mutter bleibt bis Abendrot,

お母さんは夕焼けまでいる

Schlaf, hast keine Not!

お休み、心配ないよ

Kannst nur ruhig sein,

安心していいよ

Bettler kehrt schon ein,

乞食はもう戻ってきた (けど)

Häschen schläft auf Stachelborn,

うさぎさんは いばらの茂みで眠っている

Häschen liegt nun schon im Korn,
Täubchen füttert seine Jungen,
Vöglein hat nun ausgesungen,
Müd ist alles groß und klein,
Schlaf nur ruhig ein!

いまや、うさぎさんは もう畑で横になっている
鳩さんは 子どもたちに餌をやっている
鳥さんは 歌うのをやめた
大人も子どももみんな 眠くなった
ぐっすり お休み

『日英唱歌集』において邦訳された「タウベルトの子守歌」

第一章

父の膝。

おごそかに、
慈愛めぐみの山は、
夢にも高し、
未明まだきに起き出で、
いざ、いざ、いざ、学ばむ。
理想おもひは高し。

第二章

母の膝。

おだやかに、
慈愛めぐみの海は、
夢にも深し、
未明まだきに起き出で、
いざ、いざ、学ばむ。
希望のぞみは深し。
母の膝。

第三章

親の恩。

夢の間も、
山よりたかく、
海よりふかし、
未明まだきに起き出で、
いざ、いざ、報いむ。
現に夢に。
親の恩。

上記2つを見比べて分かるように、原曲の歌詞は全く無視され、全く違う意味を持つ歌詞がつけられている。しかも「子守歌」であるが、子守歌のような歌詞には感じられない。あえてここから子守歌の要素を探すとすれば、「父の膝」と「母の膝」から連想する親のぬくもりであろうか。しかし、この邦訳された歌詞の大意は、最後にもはっきりと詠われている「親の恩」である。原曲の歌詞から、なぜここまで飛躍した歌詞がつけられるのであろうか。これは、本論文で明らかにしていく問題である。この問題に関しては、「3-4. 新しく作られた曲」で述べる子守唄に関するさまざまな歌詞を検証した結果をふまえて、本論の最後「むすび（唱歌の歌詞の意味するもの）」の項にまとめる。

3-2-3 英語の学習的要素の強いもの

『英語唱歌愛吟集』と『中学唱歌』において子守歌が掲載されているが、いずれも歌詞が原語のままである。『英語唱歌愛吟集』は、長井庄吉（1851 - 1931）という人物によって編纂されたものである。巻頭のはしがきに「刻下英語の研鑽日に進むと雖惜むらくは未だ其詩を通して誦して純潔なる理想と高尚なる趣味とを解するもの少し」とし「弘く英米に在て愛誦さらるる詩歌を抜粋」して編集したことが書かれている。編者の長井庄吉は、上田書店という出版社を設立した人物で、多くの出版物を世に出しているが、その中でも上田書店からの出版物では、英語教育に関わるものが多い。なお、現在も英語の参考書や辞書等の出版で有名な研究社は、長井庄吉の

娘婿にあたる小酒井五一郎が設立した出版社である。『英語唱歌愛吟集』の出版にあたり、その選曲等については、音楽に関する専門家が関わったかもしれないが、確かな情報は見つけることができない。そもそも、学校の音楽教育における唱歌集というよりも、英語の知識を広げる手段としての歌曲集という意味合いが強いと思われる。『英語唱歌愛吟集』に掲載されている子守歌は、「哀れ森の稚児」というタイトルがつけられており、その解説によると、イギリスに古くから伝えられてきた民謡であるという³⁹。

『中学唱歌』は、田村虎蔵によって明治43年に東京音楽書院より出版された唱歌集である。第1巻から3巻までが出版されているが、それぞれ中学1年生から3年生用である。それぞれの巻の巻末に「附録」として「英語唱歌」が10曲ずつ掲載されている。その中の3年生用に「Cradle Song」というイギリスの民謡が原語のまま掲載されている。唱歌が「純粹に音楽教育を目的にしたものではなく、他教科の補助科目という性格を強く示している」と山東功も指摘している⁴⁰が、それは当時出版された唱歌の教授法などの書物にもはっきりと述べられている。田村は『尋常小学唱歌教授書 第一学年⁴¹』において、「歌ふべき題目・事項は、成るべく他教科との連絡を図り、以て、各教科教授の統一を期さねばならない」と述べている。さらに『尋常小学唱歌教授書 第五学年⁴²』では、冒頭において「此学年よりは地理・歴史と云ふ新奇な学科さへ加えられる」と述べ、「此学年の教材はどのように選択すればよいか」という項目においても、再度新しい科目である地理と歴史について触れ、「此学年の国語読本・修身・竝に歴史・地理・理科等の教科に関係ある事項、及び、児童の實際生活に親しき事項中から之を取るのが本体である」と他科目との連携を強調している。

『中学唱歌』における「附録」は、田村の言う「他教科との連絡を図る」べき意図で、掲載された意向もあると推測できる。「附録」に関しては、各学年の巻末に10曲ずつが英語の歌詞のまま、邦訳が全く掲載されずに、印刷されている。

3-2-4 『小学唱歌集』

『小学唱歌集』は、明治14年から17年にかけて初編から第3編が発行された。日本ではじめての西洋式楽譜による唱歌集である。『小学唱歌』についての詳しいことは割愛し、ここでは旋律と歌詞の問題に焦点をしぼる。『小学唱歌集』の初編の第22曲目が「ねむれよ子」という題の子守歌である。この原曲は、ドイツの民謡で〈Schlaf, Kinderlein, schlaf〉である。『小学唱歌集』には現在「ちょうちょう」や「蛍の光」という曲名で知られているドイツ民謡やスコットランド民謡をはじめとした外国曲に日本語の歌詞をつけたものが非常に多く、その歌詞の選定については、これまで数々の研究がなされてきた。2008年に山東が『唱歌と国語 明治近代化の装置⁴³』において、文部省と音楽取調掛の細かい歌詞に関するやりとりを検証しているが、歌詞選定に関わった人物らの経歴等を詳しくしらべ、教科としての「国語」や国文学者が歌詞選定に関わったという視点から、唱歌の作成について論じている点で、非常に興味深い。

ここで、「ねむれよ子」について歌詞の邦訳を考察してみる。山東は「歌詞選定に関する山住の推定によれば、原曲の歌詞を翻訳し、次いで曲を分解して、日本の伝統的な詩の形式に従って作詞しやすくした上で、分解した曲に合わせて歌詞の修正を加えたようである。」と山住正巳の推測を取り上げている。ここで「ねむれよ子」の原曲の歌詞と邦訳された歌詞を比較してみる。なお、以下の訳詩は意識せずに、できるだけ原文に忠実に訳した。

Schlaf, Kinderlein, shclaf ⁴⁴	眠れ、赤ちゃん、眠れ
1. Schlaf, Kinderlein, shcalaf! Dein Vater hüt' die Schalf', die Mutter schüttelt' s Bäumelein, da fällt herab Träumelein. schlaf, Kinderlein, shcalaf!	眠れ、赤ちゃん、眠れ あなたのお父さんは、眠りを守っている お母さんは、揺りかごの心棒を揺すっている すると、夢が降りてくる 眠れ、赤ちゃん、眠れ
2. Schlaf, Kinderlein, shcalaf! Am Himmel ziehen die Schalf', die Sternlein sind die Lämmerlein, der Mond, der ist das Schläferlein, schlaf, Kinderlein, schlaf!	眠れ、赤ちゃん、眠れ お空を羊が通っていく お星さまは、子羊 お月さま、それは羊飼 眠れ、赤ちゃん、眠れ

- | | |
|--|---|
| <p>3. Schlaf, Kinderlein, schalaf !
 So schenk' ich dir ein Schlaf
 mit einer golden Schnelle fein,
 das soll dein Spiegelselle sein,
 schlaf, Kinderlein, schalaf !</p> | <p>眠れ, 赤ちゃん, 眠れ
 羊をあなたにプレゼントする
 素晴らしい黄金の鈴がついているよ
 これはあなたのお友達ですよ
 眠れ, 赤ちゃん, 眠れ</p> |
|--|---|

以下に邦訳された「ねむれよ子」の歌詞を記す.

第二十二 ねむれよ子

1. ねむれよ子
 よくねるちごハ
 ちちのみの父の
 おほせや まもるらん
 ねむれよ子
2. ねむれよ子
 よくねるちごは
 ははそはのははの
 なさけや したふらむ
 ねむれよ子
3. ねむれよ子
 よくねておきて
 ちちははのかはら
 ぬみ顔を をがみませ
 ねむれよ子

原文のドイツ語の歌詞と邦訳された歌詞を見ると、邦訳された歌詞は、原文の1番の歌詞を参考にしていることが容易に推測できる。しかし原曲の歌詞の父、母には、実際の父母と同時にキリスト教における父母、つまり神も同時に存在していると考えられる。邦訳された歌詞を見ると、原曲の1番の表面的な歌詞の内容を参考にし、明治期の教育において重点をおいていた「親の恩」に結びつけていることが分かる。

山東は、歌詞選定に関わった人物が国文学者たちであったと述べている。稲垣千穎、加部巖夫、里見義らの国文学者が音楽取調掛員として伊澤修二とともに唱歌作詞の中心的人物であったということであるが、ここで問題となるのは、作詞に関わった人々が、音楽には全く精通していなかったという事実である。これから学校で教える唱歌をどのようなものにするか、ということが検討されている状況であるので、伊澤修二以外は西洋音楽に関する知識は皆無であった、と考えてよい。そのような状況で、歌詞が作られていくわけであるから、音楽の様式を無視した歌詞になった、としても仕方がない。また明治13年(1880年)に来日したメーソンも『小学唱歌集』に関わったと言われているが、音楽に精通しても日本語に精通していない訳であるから、音楽取調掛員とは逆の意味で仕方がない状況であったのである。

「ねむれよ子」の楽譜を見ても、音楽の語法を知らずに歌詞が作られていったことがよく分かる。これから、旋律と歌詞の問題に着目して、音楽の様式を考えずに歌詞がつけられていったことを示す。以下の楽譜は、原曲の〈Schlaf, Kinderlein, schlaf〉と『小学唱歌集』に掲載されている「ねむれよ子」である。

まず、歌詞と旋律の問題に入る前に、原曲と「ねむれよ子」に音の違いがあることを指摘しておく。楽譜2に波線をつけている部分が、原曲と違っている。

次は、旋律と歌詞との問題である。この曲は、短い5つのフレーズからなっている。楽譜1と楽譜に2に各フレーズについて①から⑤までの番号を入れた。原曲は、②から④のフレーズが中心となる小節の1拍前から始まる弱起の形式になっている。しかし「ねむれよ子」では、③と④は原曲と同じように一拍前からの弱起であるが、

楽譜 1 Schlaf, Kinderlein, schlaf

Schlaf, Kinderlein, schlaf
 Ruhig und still
 1. Schlaf, Kind-lein, schlaf! Dein Va-ter hüt die Schaf, die Mut-ter schüt-telt 'n Bäu-me-lein, da
 fällt her-ab ein Trü-m-lein. Schlaf, Kind-lein, schlaf!

楽譜 2 「ねむれよ子」

ねむれよ子
 ねむれよ子 ねむれよ子 ねむれよ子
 ねむれよ子 ねむれよ子 ねむれよ子

②だけが2拍前からの弱起になっており、全体の音楽的なバランスを崩している。これは、旋律よりも歌詞を優先させたために起こったことであることは、容易に推測できる。西洋音楽の形式的なことを理解している人物が歌詞の邦訳を担当した訳ではないので仕方がなかった、としか言いようのない現象である。

さらに、フレーズを無視して歌詞をつけた箇所もある。楽譜2の③のフレーズである。1番と2番は③のフレーズ内で歌詞の字数がおさまっているのだが、3番だけは歌詞の字数が字余りになってしまっていて、その結果3番の③のフレーズの最後の文字が、④のはじめの音で終わっているのである。3番の③のフレーズが④のフレーズの第1拍目で終わることは、3番だけが④のフレーズが2拍目から始まることになり、これも全体的な音楽の形式を崩し、歌っていてもバランスの悪い感覚を与える。これは『小学唱歌集』全編を通して言える特徴であるが、一つの楽音に一つの日本語の音をあてているから起こった問題である。歌詞を外国語に翻訳する際には、どうしてもフレーズ内に収まらない、という状況は出てくる。現代であれば、フレーズ内の何かの音を2分割する（例えば原曲が4分音符の時に、それを8分音符二つにして歌詞の字数をまとめる等）など、どうにか原曲の音楽的な形式を崩さないような工夫をするであろう。『小学唱歌集』の楽譜を見ると、将棋の一つの升目到一个の駒が入っているように、きれいに一つの楽音に一つの日本語の音がつけられているのが、一目で分かる。西洋式楽譜の読めなかったであろう国文学者たちからなる音楽取調掛員たちが、パズルのように一生懸命一つの音符に一つの日本語の音をあてはめていった状況を想像してみると、このような問題は起こってしかるべきなのである。

外国から伝来した曲による6曲の子守歌について考察を加えた。全体を通して、音楽教育の模索期であったことが、この混沌とした状況からもうかがえる。しかし、ここで気になるのは、『小学唱歌集』や『日英唱歌集』から浮かび上がる歌詞の邦訳の問題である。原曲の歌詞が少し生かされているか、全く無視されているか、と状況は少し違いはするが、歌われている内容が「親の恩」であり、教訓的な要素が強いということである。この問題は、本論文で扱うすべての子守唄を検証した上で、最後に考察を加えることにする。

3-3 日本古来の曲について

表4 日本古来の曲をもとにして作られた子守唄について

	唱歌集名	出版年	子守唄タイトル	特徴	
6	1・2・3唱歌集	明治33	子守唄(其一)	A	江戸の子守唄

日本古来の曲がそのまま掲載されているのは、上記の表にあげた『1・2・3唱歌集』の中の「子守唄(其一)」

のみであった。これは、いわゆる「江戸の子守唄」であり、現代においても最も有名な日本古来の子守唄として知られている曲である。

この子守唄が当時の人々にとっていかに親しみ深いものであったか、ということは、明治期に発行されたピアノやオルガン、横笛やアコーディオンなどの楽譜集に、この子守唄が数多く掲載されていることから分かる⁴⁵。これらの楽譜集に共通して言えることは、西洋楽器を西洋式の楽譜を読むことで演奏して楽しむ、というスタイルをとっているが、収録されている曲は、当時流行った唱歌や軍歌、また当時の日本人なら誰でも知っている「越後獅子」などの長唄、「数え歌」などの俗曲などである。その中に「こもりうた」として、「江戸の子守唄」が多く取り上げられているのである。

このように、明治期においても「江戸の子守唄」が誰でも知っている歌であるということは容易に推測されることであるが、留意すべきは『1・2・3唱歌集』における子守唄の取り扱いである。この唱歌集は「雀と鳥」という曲にはじまり、全16曲の唱歌が掲載されているが、最後に「附録」として「遊戯用歌」と「手鞠歌」が2曲、「子守唄」が4曲掲載されているのである。つまり、ここで取り上げた子守唄は「附録」として扱われているのである。なお、子守唄として「子守唄（其一）」「子守唄（其二）」「改良子守謡」「修身子守謡」と4曲が続けて掲載されており、「子守唄（其一）」以外の3曲は、新しく作られた曲として分類される曲である。

附録として子守唄や手鞠歌が取り上げられていることについては、冒頭の緒言を読むと、編者である入江好治郎⁴⁶の意図を垣間見ることができる。緒言の最後に「子守唄、手鞠謡、等を加へタルトハ聊カ考エウルトコロアリテ然ルナリ」と書かれている。「聊カ考エウルトコロ」とはどのようなことなのか、オブラートに包んだような表現ではっきりしないのが残念なのであるが、編者は緒言において次のようにも書いている。

本書所載ノ歌曲ハ概ソ小学校教育ニ経験アル実地家ノ作ニシテ之ニ交フルニ古来ノ童謡、今代名家ノ作、等ヲ以テセリ又歌詞、旋法等ハ成ルヘク幼稚園、小学校ノ児童ノ心身發育ニ適当ナルモノヲ撰ヘリ。

幼稚園や小学校の児童に適当なものを選び、古来の童謡も取り上げたことが書かれているが、これが「江戸の子守唄」として知られている「子守唄（其一）」や手鞠歌のことであると思われる。しかし、このことが先ほど述べた「聊カ考エウルトコロ」であり、本文中に掲載することはできなかつたと判断したと思われる。入江好治郎について詳しく述べられた文献がないのが残念であるが、彼の含意するところは、表紙の絵〔図1〕にも表れているように思われる。表紙には、2人の男の子と1人の女の子が楽器を持って合奏している絵が描かれているが、男の子がそれぞれ太鼓と横笛を演奏しており、女の子が箏を演奏している。他の唱歌集の表紙には、オルガンやアコーディオンなど西洋楽器が描かれているものが数多く見られる中、和楽器だけの演奏が描かれているものは、珍しい。これだけの情報で、入江が日本古来の民謡等を教科書に取り入れるのに積極的であったと断言することは難しいが、少なくとも日本の音楽を多少なりとも意識した人物であり、西洋音楽一辺倒の考えを持っていなかったのではないかと推測できる資料である。

「聊カ考エウルトコロ」が意味することを考えてみたい。当時、子守唄や手鞠歌などの古くから伝えられてきた民謡等は、音楽教育界においてどのように捉えられてきたのだろうか。このことがはっきり述べられている資料をここで参照する。

明治44年から45年に出版された『文部省編尋常小学唱歌教材解説 第3学年⁴⁷』という本がある。これは「小学校教員諸君の、教授の参考資料に充てん目的を以て、其歌曲を解説」するために書かれた本であると、著者の松岡保は緒言において述べている。尋常小学唱歌の各曲について、要旨、歌詞、曲節、予備練習、教授上の注意等の項目を設け、丁寧に解説している。松岡は、文部省が選定した歌詞や曲の選択について、批判めいたことを述べている。この曲がこの学年にはふさわしくない、ということ等も理由を添えて、痛快に述べているのである。彼は、各曲の解説を3ページから5ページにわたり、先に述べた要旨、歌詞、曲節、予備練習、教授上の注意等について詳しく述べている。例えば、歌詞については、歴史的背景や情景を思い浮かべることのできる説明など、非常に詳しくなされている。ところが「かぞへ歌」についてのページは、要旨、歌詞等の項目すらなく、わずか5行の説明で終わっている。以下、その5行の解説を引用する。

読本巻六、第十五にある韻文である。これと取り立てていふ可き、音楽上の価値のないものである。鞠つき歌や子守唄として用ゐしめるがよい。そしてこの曲節は、幼少の時より耳に熟し、歌詞は読本にて学び居る故、殊更ら教授する程の事はない。

子どもたちが幼少の時からよく耳にしている「かぞへ歌」は、音楽上の価値のないものであり、鞠つき歌や子守唄として用いたらよい、という意味である。鞠つき歌や子守唄は、「かぞへ歌」より音楽的価値のないものである、という意味が伺える。松岡は明治43年に出版した『国定読本唱歌の研究⁴⁸』においても、同様のことを述べている。『尋常小学唱歌』は『国定読本唱歌』（正式には『尋常小学読本唱歌』）と重複するものがあり、その1曲が「かぞへ歌」である。ここでも松岡は、上記と同様に「取り立てて研究すべき価値はない。鞠つき歌や子守唄に用ゐしめるがよい。」と述べ、さらに「此歌は必ずしも歌はせる必要はない」とし、「唱歌としては好まぬ形式である」と断言している。

著者の松岡は、どのような人物であるのか。上記の2冊の本を出版した時は、東京府青山師範学校⁴⁹教諭である。さらに明治34年に東京音楽社から創刊された『音楽界』という雑誌は、伊澤修二や上眞行らが名誉員を務めているが、その編集委員として田村虎蔵、山本正夫、小松耕輔らとともに名を連ねている。

当時の音楽界、音楽教育界の中心的人物の一人であった松岡の「かぞへ歌」に関する批評は、おそらく彼だけの意見でなかったと思われる。このような音楽界、音楽教育界の考えこそが、入江好治郎が『1・2・3唱歌集』において子守唄等の掲載を「聊か考エウルトコロ」と述べた事情であると考えられる。

「江戸の子守唄」でさえ、このように掲載することさえも慎重にならざるを得ない状況がうかがえる中、守子歌などが教科書に子守唄として取り上げられることなど皆無であろう、と思われる。実際、本論文の子守唄検索のために600冊を超える唱歌集を調べたが、1曲も見つけることはできなかった。「かぞへ歌」の掲載にも批判が出る状況下において、子守唄は数え歌よりもランクの低いジャンルとして捉えられていることが判明した。ましてや、守り子たちが歌う子守唄は卑しい歌とされていたことが推測できる。



図1 『1・2・3唱歌集』の表紙

3-4 新しく作られた曲について

この項目の分類の中で、注目すべきことは、旋律が日本風に作曲されたのか(①)、あるいは西洋風に作曲されたのか(②)、ということと、歌詞が寝かせ歌のような歌詞なのか(A)、あるいは修身的・教訓的な歌詞なのか(B)、ということである。なお、この項目では歌詞が重要な意味を持つので、上記の表に「歌詞冒頭」という項目をつけ加え、歌詞の歌いだしを記した。

さて、表5に見られるように、12曲の新しく作られた曲による子守唄がある。しかし、これらの曲の中で、現代まで歌い継がれてきた曲は1曲もない。田村は『唱歌科教授法』において「私の理想を申せば、我が尋常小学校では、我国人の作に成れる曲節をのみ選択し—かつこれを課したいのである。」と述べている。しかし、現状では不可能であると嘆き、今後努力奮闘せねばならないと続けている。また日本人の作曲家によるよい作品が少ないので「西洋曲(主として欧州曲)を採用すべき必要」があるのだが、その際には「日本的趣味に近きものを選択せよ」と主張し、「近き将来に於ては、全部日本人作にしたい」という意気込みを表している⁵⁰。

田村は日本人の曲による唱歌作りを目指したが、その作風についても模索期にあることが、表5を見ても分か

表5 新しく作られた曲からなる子守唄について

	唱歌集名	出版年	子守唄タイトル	歌詞冒頭	特徴
2	小学生徒用遊戯唱歌集	明治20	教訓子守謡	眠れよ子眠れよ子	③B
3	新撰唱歌 小学生徒 第1集	明治21	眠れみどり児	ねむれみどり子 よく寐よ	③A(B)
4	絵入幼年唱歌	明治26	子守歌	私のだいの坊様は	③B
6	1・2・3唱歌集 小学校教科用	明治33	子守唄(其二)	泣かずに眠れ背の稚児	②A
7	1・2・3唱歌集 小学校教科用	明治33	改良子守謡	親にのびかつ今年の竹に	②B
8	1・2・3唱歌集 小学校教科用	明治33	修身子守謡	国は日の本御天子様の	②B
10	修正小学読本歌曲集	明治33	もりうた	ねよねよ三吉 ねむれよねむれ	①A(B)
11	日本遊戯唱歌集 第壹編	明治34	守り歌	ねんねんよ ねんねんよ	①A
12	日本遊戯唱歌集 第壹編	明治34	守り歌	ぼーやはよい児だ ねんねしな	①A
14	小学読本唱歌	明治34	ねよねよ三吉	ねよねよさんきち ねむれよねむれ	②A(B)
15	唱歌教科書 教師用 巻3	明治35	子守唄	ちごよちごよ	①A
18	新唱歌 教科適用	明治43	子守歌	坊やのお顔は白くてまんまる	②A

る。この項では、これから考察を加える「修身的・教訓的な歌詞」についての示唆が、明治期の唱歌の特徴とも言える問題に結びつくと考えられるので、この問題に移行する。

その前に、上記の表中に、歌詞の分類上A寝かせ歌のような歌詞の子守唄も5曲見られる。いずれも、歌詞の出典は分からない。鈴木米次郎(1868 - 1940)による『日本遊戯唱歌』の「守り歌」は、古くから伝えられてきたような歌詞に日本風の旋律がつけられた曲に感じる。しかし、歌詞をよく読むと「神もよい子を守らせたまふ」や「慈愛の母」と言ったキリスト教的な明治期の新しい感覚が盛り込まれた歌詞であるのが、時代を反映していて面白い。同じ唱歌集のもう1曲の「守り歌」は、前述の旋律に違う歌詞がつけられている。今度は、春夏秋冬を歌った歌詞である。また『新唱歌 教科適用』における「子守歌」は、西洋風な短い旋律に、日本古来の子守唄の「ほめ歌」的な要素を含んだ歌詞がつけられている。「坊やはよい子だ ねんねが上手 ねんねをしたなら よい所見せう」と歌い、坊やが如何に可愛らしいかということを詠った愛情あふれる歌詞である。

3-4-1 「修身的・教訓的」な歌詞について

この項目であげた歌詞に注目すると、本来の子守唄の有する寝かせ歌としての目的以外で作られた曲が大半を占めることが表からも読み取ることができる。曲の題は確かに「子守唄」あるいはそれに順ずる内容を示しているのが、ここで特徴的なのは、歌詞の内容が「修身的・教訓的」な内容であることである。

古くから伝わる子守唄の歌詞を見てみると、「明日はこの子の宮参り 一生この子がまめなように」という歌詞が各地の子守唄に見られる。「まめ」とは『大辞泉』によれば「からだのじょうぶなこと。また、そのさま。健康。たっしゃ。」という意味である。この歌詞には、子どもが一生健康で生きてくれますように、という親の願いが込められている。このように、子守唄には寝ている赤ん坊に、親をはじめとして大人の子どもに対する希望、願いが歌われている例が見られる。

このような子守唄としての性質を利用して作られたのが「修身子守唄」とも言える、ここでこれから考察を加えていく子守唄である。これらは、一言で言えば、国家が子どもをどのように育てたいのか、日本の国民としてどのような思想を持つべきか、という子どもへのいわば「すり込み子守唄」である。ここで「修身的・教訓的」要素の強い子守唄の歌詞を以下に引用する。

『小学生徒用遊戯唱歌集』 明治20年

第五節 教訓子守謡 丹所啓行作

眠れよ子眠れよ子 稚児は賢き生れ故 六つの年に成りたらば
 小学校にて学ふべし 小学校は人として 知らで叶はぬ事柄を
 教へ授る場所なれば 必ず入りて学ふべし 教え授くる事柄の
 其の第一は身を修め 次は詞の学びにて また其の詞を字に綴る
 次は和洋の算術や 地理に歴史に理科の学 唱歌体操の事迄も
 教えの儘に学ふべし

眠れよ子眠れよ子 人と生れて世に立て 身の行を知らざれば
鳥や獣に異ならず 読書算盤知らざれば 世渡る業も成り難く
物の道理を知らざれば 賢き人と云ひ難し 唱歌体操せぬ時は
身体の病ひ出来易く 身体の病の出る時は 何れの業も遂難し
稚児よ稚児よ良稚児よ 丈夫に育学校へ 入ば励て身を立てて
世に誉らるる人になれ

『絵入幼年唱歌』 明治 26 年

私の大愛の坊様ハ 今年三つにおはします
常の振舞活発に 御機嫌よきこそ嬉しけれ
あなたの生長遊ばして 本や草紙を携へて
小学校に御越します 学びの節になりたらバ
親愛深き兄様や 善き友達と手をひきて
風の吹く日も雪の日も 喜びすすみて通ひませ
学びの道ハほどとほく 奥またおくにもいたるべし
涯知られぬ大海も 撓まず漕がば渡るべし
数へみちびく師の君の 世にありがたき御詞を
心の底によくとめて かならず忘れ給ふなよ
月日ハ早く矢の如し やがてその時いたりなん
玉と育つる坊様よ 御身健康に人となり
古今にためしあるまじき 博学多才の人となり
巧妙手柄をかがやかし 父母の御名をも揚げませよ
こればあなたの孝行ぞ 玉と愛いる坊様よ
すぐれし人になりませよ 私の大事の坊様よ

この2曲の子守唄は、いずれも歌詞のみが掲載されていて、どのような旋律であったのかは不明である。『小学生徒用遊戯唱歌集』の「教訓子守唄」は、丹所啓行という人が作詞か作曲に関わっていることが記されている。この唱歌集に掲載された他の曲を参照すると、『幼稚園唱歌』や『小学唱歌』等の唱歌集に掲載された曲などで構成されている。上記2曲は、『小学生徒用遊戯唱歌集』『絵入幼年唱歌』というタイトルからも分かるように、今でいう小学生低学年を対象とした唱歌集である。いずれも簡単に歌える歌詞ではない。またこの2曲に共通しているのは、「よく学べ」「世の中で尊敬される人になってくれ」という大人の願いが込められた歌詞であるということである。「2. 明治期の教科書」において教育勅語について参照したが、いわゆる「修業修学」「知能啓発」「公益世務」の精神がひいては「孝行」にもなる、と説いた歌である。

次の唱歌には、「子守」である守り子が登場するが、子守をする子も主人の子を大事に育てなさい、国のためになるような子どもになりますように、という内容の歌である。

『1・2・3唱歌集』 明治 33 年

改良子守謡 (ホ調四分ノ四拍子)

1. 親にのびかつ、今年竹に、^{なら}比ぶこの子の末見たや末見たや。
2. さあ行ませう、絵日傘さして、西か東か向く方^{かた}へ向く方^{かた}へ。
3. 朝日うらうら、霞のおくに、坊も通へとうぐひすがうぐいすが。
4. 子守する身の、心得ごとは、子どもだいじと主^{しゅ}だいじ主^{しゅ}だいじ。
5. 子守する身も、暇ある時は、文字やお針の稽古せよ稽古せよ。
6. 守は言葉も、行儀も大切、背の子供の手本ぞよ手本ぞよ。
7. この子守して、賢う育て、君のお役にたたせたやたたせたや。
8. 大和魂は、日本の花よ、誰も咲かせううつくしくうつくしく。

さらに、次の曲は、その歌詞の長さによって圧倒される。16番までであるが、この当時の他の唱歌「鉄道唱歌」をはじめ、かなり長いものが多いので、この曲だけが特別なのではない。さて現代の感覚でこの歌詞を見ると、全体に統一感のない、とりとめのない歌詞に思えるが、歌詞を読んでいくと「教育勅語」に集約された明治時代の教育方針をすべて盛り込もうとした内容であることが分かる。しかも「教育勅語」の12の徳目を順番通りに歌った歌である。参考までに、以下の歌詞の右側の【 】内に、12の徳目を記す。

『1・2・3唱歌集』 明治33年

修身子守謡（ホ調四分ノ四拍子）

克ク忠ニ	= 國は日の本、御天子様の、御恩忘るな、露の間も露の間も。	【孝行】
克ク孝ニ	= 深い恵みに、育つたわたし、いつか返されう、親の恩親の恩。	【孝行】
兄弟ニ友ニ	= むつまじうせよ、兄弟中は、同じ五本、指ぢやもの指ぢやもの。	【友愛】
夫婦相和シ	= 松を操の、手本と定め、枯れて落ちるも、夫婦づれ夫婦づれ。	【夫婦の和】
朋友相信ジ	= お友達衆に、義理尽すのは、やはり我身に、尽す義理尽す義理。	【朋友の信】
恭儼己ヲ持シ	= 心こまかに、身の程守り、言葉やさしく、行儀よく行儀よく。	【謙遜】
博愛衆に及ボシ	= おもて口から、施すれば、もどりますぞへ、裏口へ裏口へ。	【博愛】
学ヲ修メ	= 今ちや斬して、子守をすれど、一生無学で、暮しやせぬ暮しやせぬ。	【修学習字】
業ヲ習ヒ	= 子守するのも、茲一二年、習ひませうぞへ、針仕事針仕事。	【修学習字】
智能ヲ啓発シ	= 鋭い刃物も、磨ぎよで切る、人も勉強で、智慧がつく智慧がつく。	【知能啓発】
徳器ヲ成就シ	= 心一番、仕事は二番、容貌はようても、わるうてもわるうても。	【徳器成就】
公益ヲ廣メ	= 久留米飛白の、お傳さんも女子、私も女ぢや、負せぬ負せぬ。	【公益世務】
世務ヲ開キ	= 男計に、苦勞をさせて、留守をするのが能ぢやない能ぢやない。	【公益世務】
國憲ヲ重ンジ	= 是さ婆さん、時世が違ふ、かはい孫でも、國のため國のため。	【遵法】
國法に遵ヒ	= もーし是もし、是もしなもし、何か落ちます、袂から袂から。	【遵法】
義勇公ニ奉ジ	= 國の為には、唐辛喰ても、うかと言まい、支那勝つた支那勝つた。	【義勇】

明治期に膨大に作られた唱歌についての特徴のひとつに、山東も指摘しているように「唱歌が純粹に音楽教育を目的にしたものではなく、他教科の補助科目という性格を強く示している⁹¹」ということがあげられる。また小出浩平は「曲の力で、歌詞を暗記させる旋律奴隷の唱歌」として、修身唱歌、軍歌、鉄道唱歌、人物唱歌などをあげている⁹²が、まさに「修身子守謡」もそのよい例である。

上記にとりあげた『絵入幼年唱歌』は、「夏は来ぬ」の作詞でも有名な、歌人であり国文学者でもあった佐々木信綱（1872 - 1963）が編集にあたっている。佐々木は『絵入幼年唱歌』の緒言において、このような子守唄が作られる背景にあるものについて述べている。「此書ハ、幼年子女に忠君愛國の思想をやしなはしめ、優美高尚の觀念を起こさしめんとて」選曲を行っており、さらに「忠君愛國、其他人倫に関せるもの、軍歌の類、さてハ往古の人物四季雜の景物にても、あるハ幼年の教訓となり、あるハ幼年の嗜好にてきすべきものをよしとす」と、忠君愛國の精神について繰り返し言及している。これこそが、「修身子守唄」ともいえる「すりこみ子守唄」の根底にある国家の意向なのである。

さて、次に表4の「特徴」欄に示した「A(B)」が示すものについて考察を加える。これは、これは、A寝かせ歌のような歌詞の中にB修身的・教訓的な要素が見られる歌である、という意味である。純粹に寝かせ歌としての内容とは言えず、その中に少し修身的・教訓的な要素が含まれている、というものである。以下にその例をあげる。

『新撰唱歌 小学生徒 第1集』 明治21年

五二 眠れみどり児

ねむれみどり子。よく寝よ。朝疾くおきて。父母の。御かほ拜みて。ほほ笑めよ。悦びえめよ。いつくしみ。

『修正小学読本唱歌集』（明治33年）／『小学読本唱歌』（明治34年）

ねよねよ三吉

ねよねよ三吉 ねむれよねむれ
 乳のめ乳のめ 泣くなよ泣くな
 泣くなよ三吉 泣く子はよわい
 昔の勇士は だれでも泣かぬ

『新撰唱歌』の「眠れみどり子」は、一見すると寝かせ歌のように思えるが、父母への孝養の意味合いを含んだ歌詞であると解釈できる。「教育勅語」の示す「孝行」を含意した子守唄の歌詞である。さらに「ねよねよ三吉」は『修正小学読本唱歌集』と『小学読本唱歌』に同じ歌詞の歌が掲載されているが、作曲者が違うようで、旋律は全く違う。おそらく『小学読本』の文章をもとに作られた唱歌である。歌詞の後半に歌われているように、昔の勇士のように立派な人物になってほしいという「義勇」の意味合いを含んでいる。

このように見てみると、多くの「こもりうた」と題された唱歌が、子どもを寝かせるための純粋な歌ではなく、国家の意思、国家が考える子ども像を歌った歌であったか、ということが判明した。

むすび（唱歌の歌詞が意味するもの）

明治期に出版された膨大な数の唱歌集から「子守唄」を探す作業は、大海で針を拾うような作業であった。「3-3 日本古来の曲について」で参照した松岡保の教授書に「数え歌が唱歌としてふさわしくない、鞠つき歌か子守唄として扱うべきだ」という趣旨のことが書かれていたが、西洋音楽を取り入れることで唱歌作りが始められた明治期において、口承で伝えられてきた歌に対する評価は非常に低いものであり、その中でも、数え歌よりも低い位置に格付けされていたのが、日本に古くから伝わる子守唄であった。古くから伝えられてきた子守唄自体を教科書に堂々と取り上げ、それを子どもたちに学ばせるという意識は、明治期の音楽教育者たちの考えにはなかった。しかし子守唄は、子守唄という姿をかりて、修身的・教訓的なことを学ばせる、という手段で使われた。愛情溢れる歌詞のドイツ民謡やロマン派の作曲者たちによる子守歌も、歌詞の邦訳という過程を経る間に、父母に対する「親の恩」のみを歌う歌詞にすりかわってしまっている。

本論文で参照した明治期の唱歌集の子守唄20曲のうち、4曲が「修身的・教訓的」な歌詞の子守唄であり、3曲が「修身的・教訓的」な意味合いを含む子守唄であった。さらに「親の恩」のみを歌う子守唄になってしまった「眠れる子」（『日英唱歌集』に掲載されたタウベルトの子守歌）と「ねむれよ子」（『小学唱歌集』に掲載されたドイツ民謡）の2曲を合わせると、20曲中9曲が、修身的な意味合いの歌詞の子守唄であることになる。子守唄とは名ばかりで、国家の教育思想が反映された「すりこみ型の唱歌」である。さらに恐ろしいことには、本来であれば、生れて間もない赤ちゃんにも歌う、愛情にあふれた歌であるはずの子守唄という形をかりて、国家の思想を歌っていた、ということである。

子守唄を検証していく過程で、明治期の唱歌像が見えてきた。それは、明治期の唱歌は、音楽のために存在したのではなく、国家の意図を反映させる歌詞を暗唱させる手段として用いられてきた、歌詞偏重型の音楽であったということである。これまで引用してきた田村虎蔵による教授書等には、このような状況を批判し「子どもの嗜好する題材を選ぶように」という意向が見えてくる。これらの動きが、大正期の童謡運動などと合間って、子どもを取り巻く音楽界に変化していくと思われる。子守唄を通して、大正から昭和にかけて、どのように音楽教育界が変化していくのか、次回の課題につなげたい。

注

- 1 2004年9月20日「読売新聞」の記事参照。
- 2 日本放送協会編『復刻 日本民謡大観』1992～1994、日本放送出版協会。
- 3 北原白秋『日本伝承童謡集成 第一巻 子守唄篇』昭和22年（1947）、三省堂。
- 4 戦後の学習指導要領を見ると、昭和22年、26年には、学習内容に「日本および外国の民謡に関する知識」という項目があるが、昭和33年以降の小学校6年の鑑賞の内容を追っていくと、33年には日本の楽器の理解だけが取り上げられている。昭和43年には「世界のこどもの歌や民謡、世界の民俗楽器による器楽曲」が内容に含まれてい

る。昭和52年、平成元年には「箏及び尺八の旋律を含めた声楽曲や器楽曲」と諸外国の音楽は記載されていない。そして、平成11年になると「箏や尺八に加え我が国の音楽、諸外国に伝わる音楽」と諸外国の音楽が再度内容に含まれることになっている。

- 5 畑中良輔他『小学生の音楽5』2008, 教育芸術社, 17頁.
- 6 音楽取調所編『音楽取調成績申報書』明治17年(1884), 東京:文部省.
- 7 赤坂憲雄『子守唄の誕生』2006, 講談社, 16頁.
- 8 川原井泰江『守り子と女たちの子守唄』2003, ショパン, 22頁.
- 9 宮内仁『日本の子守唄』1999, 近代文芸社, 9頁.
- 10 同上 12頁
- 11 ここでは、江戸、明治時代の見方を中心とするが、柳田国男、北原白秋、町田嘉章等が、様々な分類をしていて、これを踏まえた右田伊佐雄の分類方法で本論を進めていくので以下それを表記する(川原井 前掲書).

[寝させ歌]

○直接寝させ歌

- ①まもり歌-親や神様が守ってくれているから安心して寝なさい
- ②くりごと歌-「ねんね」等の歌詞を繰り返す
- ③ほめ歌-「お前は良い子だ、ねんねしな」寝る理由を解いた
- ④ほうび歌-早く寝れば起きた時に褒美をあげる
- ⑤おどし歌-早く寝ないと怖いことが起きる
- ⑥ことわけ歌-①~⑤の寝る理由以外のものが書かれた歌

○間接寝させ歌

- ⑦家びと歌-子どもの周りの家族の様子
- ⑧話し歌-物語になっている
- ⑨こころばせ歌-歌い手が自分自身を癒す目的
- ⑩ことば遊び歌
 - ・しりとり歌形式-語尾の言葉をつなぎしりとり
 - ・数え歌形式-一に…, 二に…, 三に…と続く
 - ・語呂合わせ形式-頭韻効果のねらうもの
- ⑪ひとり歌=独り言歌
 - ・眠ることに関係ある歌-子守歌
 - ・何の関係もなさそうな歌-子守歌でないもの

[遊ばせ歌]

- ⑫数え歌-一人遊びのできない子どもと歌い手が一緒に遊ぶ
- ⑬おさな遊び歌
 - ・静的歌詞の歌-情景描写, 物語
 - ・動的歌詞の歌-刺激を与えて喜ばせる

[守り子歌]

- ⑭なげき歌-守り子自身が自分の境遇を嘆いている
- ⑮さからい歌-守り子が反抗的, 積極的, 能動的
- ⑯たわむれ歌-子どもの存在を忘れ, 守り子自身が遊ぶ

- 12 釈行智『童謡集』これは、川原井泰江『守り子と女たちのこもりうた』の中に引用してあるが出版年は不明.
- 13 岸辺福雄『親のため子のため』大正6年(1917), 東京:実業之日本社, 219-221頁.
- 14 天野藤男『農村と娯楽』大正2年(1913), 東京:洛陽堂, 119-120頁.
- 15 小野政方『母様論』大正9年(1920), 東京:新光社, 296-297頁.
- 16 畑中良輔他『中学生の音楽1』2010, 教育芸術社, 平成17年 検定済教科書, 29頁.
- 17 洪川玄耳(柳次郎)『閑耳目』明治41年(1908), 東京:春陽堂, 120頁.
- 18 前掲書『日本伝承童謡集成 第一巻 子守唄篇』
- 19 佐治郎兵衛『お座敷二輪加 酒席余興』明治44年(1911), 大阪:名倉昭文館, 185頁.
- 20 『にわか』『大百科事典』1985, 平凡社.
- 21 海後宗臣, 仲新『日本教科書体系 第25巻 唱歌編』1965, 講談社.
- 22 山住正巳『唱歌教育成立過程の研究』1967, 東京大学出版会, 13頁.
- 23 文部省音楽取調科編『小学唱歌集 初編』明治14年(1881), 東京:文部省.
- 24 山住正巳『『小学唱歌集』初編の成立』1955, 岩波書店 『文学』.
- 25 加藤精一郎『増訂小学開発唱歌集』明治23年(1890), 山形:亀斐堂.
- 26 鎌谷静男『尋常小学読本唱歌編纂秘史』2001, 文芸社, 13頁.

- 27 田村虎蔵『唱歌科教授法』明治41年(1908),東京:同文館,62頁.
- 28 前掲書『日本教科書体系 第25巻 唱歌編』
「唱歌については教科書として使用されたかどうか明らかでない唱歌集や楽譜本などが多数出版されている。小学校では検定や国定の教科書で授業すると共に、これら以外の本によって唱歌や童謡なども教えることもあった。本書では唱歌教科書として、あるいはこれに準ずると認められるものを取りあげることにした。」とある。
- 29 明治14年から45年までに唱歌の教授に関する書籍は国立国会図書館、東京芸術大学附属図書館の蔵書の中に24冊ある。
- 30 唐澤富太郎『教科書の歴史 一教科書と日本人の形成一(上)』1989,ぎょうせい,193-194頁,393-395頁の分類をもとにした。
- 31 同上,235-236頁.
- 32 山住正巳『唱歌教育成立過程の研究』1967,東京大学出版会,72頁.
- 33 塚原康子『明治国家と雅楽』2009,有志舎.
- 34 前掲書『音楽取調成績申報書』
- 35 松岡保『文部省編尋常小学唱歌教材解説 第3学年』(明治44-45,東京:広文堂)における「かぞえ歌」についての解説のページで「これと取り立てていふ可き、音楽上の価値のないものである。」と述べられている。また巻頭の「総説」においても、数え歌について「唱歌教材といふ方面からは全然『かぞへ歌』『川中島』的のものを除いて、他に適當なるものを以て之に代ふるとか。」などと述べている。
- 36 『幼稚園唱歌集』(明治29年,文部省音楽取調掛編)『小学唱歌』(明治25年,伊澤修二編)『尋常小学唱歌 第三学年』(明治45年,国定教科書共同販賣所)等に「かぞへ歌」が掲載されている。
- 37 富田博之『日本のキリスト教児童文学』1995,国土社.
- 38 『日英唱歌集』26,27頁掲載の「別れ」はベートーベンの編曲物である。原曲は「25のスコットランド民謡」より第20番〈忠実なジョニー Faithful Jonie, op.108-2〉。同著の37,38頁掲載の「夢」はシューマンの曲である。原曲は「子供の情景」より第7番〈トロイメライ Träumerei op.15-7〉。
- 39 『英語愛吟集』25頁.
- 40 山東功『唱歌と国語 明治近代化の装置』2008,講談社.
- 41 田村虎蔵『尋常小学唱歌教授書 第一学年』大正2年(1915),東京:明治出版協会.
- 42 田村虎蔵『尋常小学唱歌教授書 第五学年』大正4年(1917),東京:明治出版協会.
- 43 前掲書『唱歌と国語 明治近代化の装置』
- 44 Das grosse Buch der Kinderlieder. Mit vielen Bildern Gerda Ainkler-Born.Wien (Tosa Verlag),S.50
- 45 例えば『手風琴独まなび 下の巻』(明治30年,東京:十字屋)『吸風琴独習』(明治42年,東京:修学堂)『鉄心琴独まなび』(明治36年,京都:十字屋楽器部)他数多くの曲集に「江戸のこもりうた」が取り上げられている。
- 46 『東京音楽学校卒業生氏名録』(大正15年,東京:東京音楽学校,5頁)によれば、滋賀県出身で明治31年7月に本科師範部を卒業している。また『1・2・3唱歌集』の表紙には、入江好治郎が新潟県第一師範学校教諭であり、新潟県高等女学校教諭を兼任していることが書かれている。
- 47 松岡保『文部省編尋常小学唱歌教材解説 第3学年』明治45年(1912),東京:広文堂.
- 48 松岡保『国定読本唱歌の研究』明治43年(1910),東京:広文堂.
- 49 現在の東京学芸大学の前身。1949年東京の4つの師範学校(青山師範学校,豊島師範学校,大泉師範学校,青年師範学校)が合併して、東京学芸大学となった。
- 50 前掲書『尋常小学唱歌教授書 第一学年』142-144頁.
- 51 前掲書『唱歌と国語 明治近代化の装置』112頁.
- 52 小出浩平『日本唱歌の歴史』『日本の唱歌(下)』1982,講談社.

参考文献

唱歌集の類

『小学唱歌集 初編』	文部省音楽取調掛編	明治14年(1881)	東京:文部省
『小学生徒用遊戯唱歌集』	矢羽根孝太郎編	明治20年(1887)	市川大門村(山梨県):芳文堂
『新撰唱歌 小学生徒 第1集』	日置岩吉	明治21年(1888)	大阪:赤志忠雅堂
『絵入幼年唱歌』	佐々木信綱	明治26年(1893)	東京:博文館
『幼稚園唱歌』	エー・エル・ハウ撰	明治25年(1896)	大阪:福音社
『1・2・3唱歌集 小学校教科用』	入江好次郎	明治33年(1900)	東京:博文館
『修正小学読本歌曲集』	永井幸次	明治33年(1900)	静岡:吉見書店

『日本遊戯唱歌集 第壹編』	鈴木米次郎	明治 34 年 (1901)	東京：十字屋
『小学読本唱歌』	目賀田万世吉	明治 34 年 (1901)	奈良：音楽書院
『唱歌教科書 教師用 巻 3』	共益商社楽器店	明治 35 年 (1902)	東京：共益商社楽器店
『英語唱歌愛吟集 第 2 集』	長井庄吉	明治 36 年 (1903)	東京：太平洋館
『日英唱歌集 第 1 集』	福井直秋	明治 41 年 (1908)	東京：学海指針社
『新唱歌 教科適用』	渡辺義丸, (小林礼)	明治 43 年 (1910)	甲府：開進堂商店音楽部
『女子音楽教科書 教師用 巻之一』	永井幸次, 田中銀之助	明治 44 年 (1911)	大阪：開成館
『中学唱歌 教科統合 第 3 巻』	田村虎蔵編	明治 44 年 (1911)	東京：東京音楽書院〔ほか〕
『幼稚園唱歌集』	文部省音楽取調掛編	明治 20 年 (1887)	東京：文部省編集局
『小学唱歌』	伊澤修二	明治 25 年 (1896)	東京：大日本図書
『尋常小学唱歌 第三学年』	文部省	明治 45 年 (1912)	東京：国定教科書共同販売所

その他

- 赤坂憲雄『子守り唄の誕生』2006 講談社
川原井泰江『守り子と女たちのこもりうた』2003 ショパン
宮内仁『日本の子守唄』1999 近代文芸社
西館好子『「子守唄」の謎』2004 祥伝社
北原白秋編『日本伝承童謡集成 第一巻 子守唄篇』1947 三省堂
右田伊佐雄『子守と子守唄 その民俗・音楽』1991 東方出版
渡辺富美雄『子守歌の基礎的研究』1979 明治書院
天野藤男『農村と娯楽』大正 2 年 (1913) 東京：洛陽堂
小野政方『母様論』大正 9 年 (1920) 東京：新光社
佐次郎兵衛『お座敷二輪加 酒席余興』明治 44 年 (1911) 大阪：名倉昭文館
岸辺福雄『親のため子のため』大正 6 年 (1917) 東京：実業之日本社
山住正巳『教育勸語』1980 朝日新聞社
加藤地三, 中野新之祐『教育勸語, を読む』1984 三修社
塚原康子『明治国家と雅楽』2009 年 有志舎
音楽取調所編『音楽取調成績申報書』明治 17 年 (1884) 東京：文部省
松岡保『文部省編尋常小学唱歌教材解説 第 3 学年』明治 44 - 45 年 (1912) 東京：広文堂
富田博之『日本のキリスト教児童文学』1995 年 国土社
田村虎蔵『尋常小学唱歌教授書 第一学年』大正 2 年 (1915) 東京：明治出版協会
田村虎蔵『尋常小学唱歌教授書 第五学年』大正 4 年 (1917) 東京：明治出版協会
山東功『唱歌と国語 明治近代化の装置』2008 年 講談社
Das grosse Buch der Kinderlieder. Mit vielen Bildern Gerda Ainkler-Born. Wien (Tosa Verlag)
新井省五郎『手風琴独まなび 下の巻』明治 30 年 (1898) 東京：十字屋
津田峰子『吸風琴独習』明治 42 年 (1909) 東京：修学堂
岩崎亀次郎『鉄心琴独まなび』明治 36 年 (1903) 京都：十字屋楽器部
東京音楽学校『東京音楽学校卒業生氏名録』大正 15 年 (1926) 東京：東京音楽学校
松岡保『国定読本唱歌の研究』明治 43 年 (1910) 東京：広文堂
金田一晴彦・安西愛子『日本の唱歌 (下)』1982 年 講談社